



全体会 『研究のための情報収集と整理(基礎編)』

講師 住政二郎さん(姫路獨協大)

発表では、「調べる」「まとめる」「伝える」をキーワードに、①図書館の便利な利用法、②文献整理の方法、③APA、④持ち込みパソコンの接続方法についての紹介がありました。

発表は、画像やアニメーションが効果的に利用されており、情報の提供にとどまらず、聞き手としても参加できる興味深いものでした。加えて、大学が提供するサービスを利用する際につまづきやすい点が、実例をあげて紹介さ



分科会 I

博士論文について
講師 川村義治さん
(金沢星稜大)

川村さんは、認知意味論に関する博士論文を修められました。当日は、過去に培った教授経験、知識をどのように論文に結びつけるのかという

視点からお話し頂き、博士論文の執筆を控えている私達にとって大変参考になりました。

「博士課程に入学し、本や論文からのみではなく、ゼミのクラスメイトや先生に話すことの重要性に気が付かされた」、「話すことによって引き出されるものがある」と仰っていたのが印象的でした。論文を書くことについて、「論文を沢山読むことにより、新しいアイデアを探し、自分の論文を支える一本(一冊)を探すこと」の大切さを指摘されていました。(中平里美)



分科会 II

課題研究について
講師 真田恵美子さん
(英語専攻)

真田さんは入学以前から元々、小学校の英語活動に大変関心を持っていらっしゃいました。そのため、大学院では「学校の先生のための参考書の教材の作成」に専念されました。教材は、忙しい先生

の視点から、「すぐに利用できる事」を第一に考慮し、多彩な色遣いで見易くし、また、授業で使用できる効果的な絵本・小道具の紹介については多数の写真掲載し、様々な工夫を施して作成された事を発表されていました。教材作成や論文執筆の計画については、急な予定が入ることもあるので、早めから着手することの重要性を指摘され、また「自分だから作れた」というこだわりと、なぜ



作りたいと思ったのかを、自分に問い続けることが必要」と貴重なアドバイスを頂きました。(本間祐子)

修士論文について
講師 中山由美子さん
(英語専攻)

中山さんからは、修論執筆の際のスケジュール、実験や執筆の際の注意点など、非常にプラクティカルな発表をして頂きました。仕事、母親、学生と三種のわらじを履く私には(どれ一つきつちりとは履けてはいないのだが!?)、スケジュール管理のお話が一番参考になりました。例えば



「夏休みは子どもが家にいるので書けない」と割り切ったその期間は除外し、「この章にかけられる時間はこれだけ」と逆算して章ごとのスケジュールを決定するなど。また、研究はキリがないので「この章はここまで」と区切る思い切りも大切とのこと。木も見るが、やはりしっかり森を見ることが修論執筆の鍵でしょう。(佐藤浩子)

学会総会 報告

2008年6月21日
於・関西大学尚文館

議案書の内容は一部を除いて全て承認されましたが、会則改訂に関して、二点の改訂審議を行いました。一点目 第三条 文学研究科外国語教育専修の修了生を正会員とする。二点目 第十条 会費に關する会則内容。一点目の第三条は承認されましたが、二

点目の第十条においては再審議の必要が生じました。旧会則では「関西大学大学院外国語教育研究科在籍者の会費は免除する」となっていることから、これまでは入学会費は免除で学会運営を行ってまいりました。しかし協議の結

果、学会入会は個人の意志を尊重することに決まり、それによって今後の学会運営は円滑に行われる見通しです。議案書にて通知した会則改訂案は以下のとおりです。改訂案「関西大学大学院外国語教育研究科在籍者の正会員は、会費として二千元を納入しなければならぬ」という改定案は、在籍者皆様の意志を

尊重して希望者のみ入会登録をし、学会運営のため会費納入をすることを趣旨にしております。金額設定に關して審議を重ねた結果、「在籍者の正会員は会費を納入しなければならぬ」というこ

ました。在籍者の皆様には大いに關わることでありますので、臨時総会には是非ともご参加頂き意見賜りたく存じます。日時、審議内容については、追ってご連絡を差し上げます。

当日、以下のみなさまにも相談役としてご尽力をいただきました。ありがとうございました。

- 木村智里さん(英語、修士論文)
- 若林加愛さん(日本語、修士論文)
- 四方美智子さん(中国語、修士論文)
- 小山敏子さん(大阪大谷大学)
- 池田真生子さん(姫路獨協大学)

6月21日第2回研究会開催。参加人数40名。うち在学生25名、修了生11名、教員3名、不明1名。多くのご参加、誠にありがとうございました。